

文明の十字路・ダゲスタン

——コーカサスの民族美術——

1992年6月3日(水)ー7月19日(日)

渋谷区立松濤美術館

〒150 東京都渋谷区松濤2-14-14 電話03(3465)9421



アヴァール人の民族衣裳



コニャック・セット クバチ



頭飾り 北ダゲスタン



フェルトの敷物(部分) フンザハ

後援：外務省、在日ロシア連邦大使館
特別協力：ロシア連邦ダゲスタン自治共和国美術館
ロシア科学アカデミー・ダゲスタン学術センター
国立民族学博物館

【開館時間】 9時～5時(入館は4時30分まで)
【休館日】 6月8日(月)、14日(日)、15日(月)、22日(月)
29日(月)、7月6日(月)、12日(日)、13日(月)
【入館料】 一般200円(160円)、小中学生100円(80円)
※()内は団体20名以上の割引料金



グニブ村と地層の露出した山々

ロシア連邦の一部であるダゲスタン自治共和国は東をカスピ海に臨み、西と南をけわしいコーカサス山脈が連なる複雑な地形の国で、北東コーカサスに属しています。この地域は古来、幾多の民族が侵入し、融合を繰り返してきました。ダゲスタンはアジアとヨーロッパの接点であると同時に、北方ステップの騎馬民族世界と西アジアの定住社会とを結ぶ文明の十字路的役割を果たしてきたのであります。

他方、山岳地帯を中心に、三十を越す民族がモザイク状に居住し、極めて地域性の強い固有の伝統文化を育み、今日に伝えて来ています。各民族によって育まれた独自の文化遺産は彼らが日常使用している生活用具や素晴らしい美術工芸品に端的に表現されています。特に、ダゲスタンの金属工芸は精巧なデザインと高度な技術により周辺諸国に名声を馳せていました。

本展はダゲスタン美術館所蔵の美術工芸品約二百余点到ロシア科学アカデミー・ダゲスタン学術センター所蔵の考古遺品を加えて陳列し、多様かつ個性的な美術と文化の全貌の一端を紹介するものであります。また、ダゲスタンは長年外国に国を閉ざしていたため、その文化と美術の実態は殆ど海外に紹介されていませんでした。ダゲスタンの民族の貴重な文化遺産がこれほどの規模で海外に公開されるのは初めてのことです。



鹿小像 ホスレフ 前12-11世紀



水差し スレフケント



砂糖・塩入れ ルグジャ

●講演会

6月20日(土)午後2時～

「文明の十字路・ダゲスタン」

講師 加藤九祚(創価大学教授)

●映画会

6月21日(日)午後2時～4時

エルミタージュ美術館1

——永遠の美の歴史——

7月19日(日)午後2時～4時

エルミタージュ美術館2

——近代絵画の巨匠達——

●美術相談

6月7日(日)午後2～4時

講師 佐藤善勇、佐久間公憲
(洋画) (洋画)

7月5日(日)午後2～4時

講師 宮田翁輔、大和屋巖
(洋画) (水彩画)

【案内図】

